

シビックゾーン第1次整備計画

目次

1. 第1次整備計画策定の背景	1
2. すこやか交流プラザ	
2-1. 整備方針	2
2-2. 整備概要	4
2-3. 各階整備の概念	5
2-4. 平面図	8
3. 歴史資料展示室跡	
3-1. 整備方針	10
3-2. 平面図	10
4. 第1次整備計画等工程表	11
資料編	13

1. 第1次整備計画策定の背景

シビックゾーン基本構想においては、施設の機能集約・再配置を図るため、シビックゾーンを「子ども・子育て・健康ゾーン」、「文化・学習・にぎわいゾーン」、「行政・福祉・ボランティアゾーン」の3つに区分し、それぞれのゾーンの基本的な考え方を設定したところである。

その中で、「子ども・子育て・健康ゾーン」については、「すこやか交流プラザ」を大野城市の「子ども・子育て・健康ゾーン」の機能を担う子育て支援ネットワークの中核として位置付け、子育て支援ボランティアの拠点機能などを集約するとともに、「大文字公園」と一体的な利活用を進めていくこととしている。

また、「すこやか交流プラザ」は健康づくりの拠点でもあり、運動などの健康増進及び食育の機能を備えていることから、従来からの成・老人を対象とした集団健診や健康運動事業などを継続するとともに、乳幼児や子育て世帯の保護者に向けた事業を展開するなど、これまで以上に幅広く活用されるよう健康と子育てを連携して進めていくこととしている。

これらの基本的な考え方を踏まえ、「すこやか交流プラザ」の整備や「大文字公園」との一体的な利活用などを具体的なものとするため、『シビックゾーン第1次整備計画』を策定するものである。

加えて、「大野城心のふるさと館」が平成30年夏に完成することに伴い、「市庁舎」新館3階の歴史展示資料室が移転し、その跡のスペースが利用可能となる。このことから、新たに創出される公共空間の有効活用を図るため、歴史資料展示室跡の整備にかかる計画についても併せて行う。



2. すこやか交流プラザ

2-1. 整備方針

施設整備にあたっては、次の4つの整備方針により実施することとする。

【整備方針1・交流】

子育て支援ネットワークの中核となる施設

転入・転出が多い本市では、子育てにおいて孤立することが無いように、身近に子育て仲間をつくりやすくする環境を整備する必要がある。また、核家族化が進行していることから、子育てに関する正しい情報を提供するなど子育て支援サービスの拡充が必要となっている。

このことから、「すこやか交流プラザ」に各種子育て支援サービスなどの情報を集約し、サークルやボランティアが集う、市全域で連携を図る子育て支援ネットワークの中核施設として位置付け、子育て世代の仲間づくりやコミュニケーションの場としての機能を拡充し、保護者同士のネットワーク構築の一助となるよう、交流の場としての施設整備を行う。



【整備方針 2・学習】

各種親子向けの講座や教室が充実した施設

子育てに関する情報や仲間同士のネットワークの拡充と並行して、ニーズが高い親子向けの講座や教室の充実を進める。これまで市内の市立保育所で実施していた各種講座や教室を「すこやか交流プラザ」で実施することにより、スペースの拡大を図り、更なる利用者の拡大に努める。

また、公民館親子サロンなど、地域で行っている各種事業と連携を図ることで、多様なニーズに対応しながら、地域の子育てサークルやボランティアで活動している方の学習の場となる施設をめざす。



【整備方針 3・健康】

子どもから大人まで、心と体の健康をつくる施設

心の健康のみならず、「すこやか交流プラザ」においては、調理室や診察室など、専門的な機能が配置され、運動や食育など、多角的なアプローチから健康増進を図る拠点施設としての機能を有している。

保護者が子育てのイライラをよく感じる割合の増加に併せて、子どもの健やかな成長を実感できない割合は増加傾向にある。このような子育ての悩みや不安に対する相談ニーズは近年増加傾向にあり、重症化を防ぐための早期発見と相談体制の充実が肝要である。

既存の設備を十分に活用しながら、子どもから大人まで、専門的なニーズに対応する施設をめざす。



【整備方針 4・遊び】

親子が自由に遊び、くつろぐことができる施設

利用者が急増している親子サロン「スマイル」においては、4～5歳児程度の子どもが安全に遊ぶ場所が十分には確保されていない現状があり、スペースの拡充は喫緊の課題である。

開放的で明るい施設イメージを基調として、利用者の利便性も考慮したフリースペースの拡充を進める。また、既存の親子サロンのスペースの他にも、飲食可能なスペースの整備や、貸出遊具などを使った「大文字公園」との一体的な利活用など、親子が気軽に来館し、自由に遊び、くつろげる空間のある施設をめざす。



2-2. 整備概要

階	主に担う機能		備考
	新	旧	
3階	【交流】【学習】	【情報】【遊び】	【情報】機能を、ネットワークの核となる相互の【交流】機能に強化(一部1階へ) 【遊び】機能は1階へ 【学習】機能を新たに追加
2階	【健康】	【健康】	【健康】機能を集約
1階	【遊び】	【健康】 【介護：地域包括】	【介護：地域包括】機能は「市庁舎」へ 【遊び】機能を強化

2-3. 各階整備の概念

3階【交流】【学習】

3階は1階とは異なり、目的を持った人が利用する機能を配置することが望ましく、子育てサークルやボランティアが集い、ネットワークを構築できる空間を確保する。また、既存のフラットなスペースを活かして整備することで、費用を抑えながら、講座など、多目的な事業展開が期待できる。

このことから、子育て支援センターや療育支援センター、3歳児集団健診など、特定の目的で使用するスペースを確保しつつ、子育てサークルやボランティアが集える空間を確保する。1階と比較して、子どもよりも保護者に向けた講座などの子育てのスキルアップにつながる事業展開を中心に配置を行う。

加えて、市内の子育てに関する事業の紹介のほか、子育てに関する専門的な資料などが閲覧可能なスペースを確保する。

これらのことを実現するため、以下の機能を整備する。

機能	整備内容等
(仮称) 活動スペース	<ul style="list-style-type: none">・現在の親子サロン実施スペースの一部とあおぞら広場（ベランダ）を利用し、多目的に利用できるスペースとして整備する。・現時点では、赤ちゃん広場、リーダー育成、のびのび教室、親子あそび教室、ハミング教室、母親教室などの子育てのスキルアップにつながる事業のほか、育児サークルなどの活動スペースなどが想定される。・その他、子育て支援に関する図書などの資料を常設する情報収集スペースとしての活用も考えられる。
相談室	<ul style="list-style-type: none">・現在の倉庫を改修して、プライバシーに考慮した個室の相談室を整備する。
授乳室	<ul style="list-style-type: none">・おむつ替えや授乳のための授乳室を設ける。
会議室	<ul style="list-style-type: none">・現親子サロンの相談コーナー及び倉庫として利用している場所を、子育てサークルやボランティアの会議室として整備する。
執務スペース	<ul style="list-style-type: none">・子育て支援の拠点として執務スペースを設ける。・現在、筒井保育所、大野南保育所で行っている子育て支援センターの執務を一本化し、子育て支援の強化・連携を図る。

※子ども療育支援センター側は、現状機能のとおりとする

2階【健康】

2階は従来から複数の部屋があり、調理室や診察室など、専門的な機能が配置されていた。このことから、既存の施設を活用しながら、特に健康に関するフロアとして整備することで、改修費を抑えつつ、専門的かつ多様なニーズに対応する。

また、学習室は時間帯毎で調整しながら、多目的に活用することで施設の稼働率を向上させる。

これらのことを実現するため、以下の諸室（スペース）を整備する。

機能	整備目的等
健康増進室	<ul style="list-style-type: none">・視聴覚室を改修し、受付ブースを室内に設け、自転車エルゴメーターやトレッドミルなどの機器を配置する。・問診コーナーと記録保管室を改修し、指導員控室と倉庫を設ける。
健康学習室①	<ul style="list-style-type: none">・食育などの各種講座や会議スペースとして活用するほか、各種健診などでも使用する。
健康学習室②	<ul style="list-style-type: none">・健康増進室と連携し、器具を使わないミニレッスンを展開するほか、各種健診などでも使用する。
男子更衣室 女子更衣室	<ul style="list-style-type: none">・現在倉庫として利用されている男子更衣室と女子更衣室は、更衣室として利用できるように整理する。
すこやか調理室	<ul style="list-style-type: none">・現在の食改善事業や各種料理教室などの拡充を図り、稼働率の向上を図ります。
和室	<ul style="list-style-type: none">・3歳児健診やすこやか調理室での調理実習などの多くの事業に活用できるように、使用頻度が少ない和室横の男子便所と女子便所を解体し、和室の拡張及び押入れの追加を行う。

1階【遊び】

1階は来館者が最も利用しやすく、多くの人の目にもつきやすいため、ニーズが高い事業に加え、施設のイメージの構築や広く市民にPRする機能も勘案して事業の配置を行う。

また、施設全体の窓口機能を1階に配置する必要があるため、正規職員を配置する。

加えて、子どもに関する情報提供の場、飲食可能なスペースや「大文字公園」と一体的な利活用が可能で、明るく開放的かつ安全な空間をイメージした子どもの遊び場を中心に整備を検討する。

これらのことを実現するため、以下の機能を整備する。

機能	整備目的等
(仮称) プレイ スペース	<ul style="list-style-type: none">・親子サロンの実施スペースとし、親子サロン全体を見渡せる位置に4人程度の親子サロンの事務スペース（スタッフコーナー）を設け、その横に収納棚を設ける。・スペース内は、0～2歳児と3～5歳児のエリアを緩やかに区切り、3～5歳児のエリアは「大文字公園」側との接続部を設け、安全性に配慮した整備を行い、「大文字公園」と一体的な利活用ができる機能とする。
授乳室	<ul style="list-style-type: none">・親子サロン利用者などが使用できるように、内部を間仕切り、おむつ替えや授乳のための授乳室を設ける。
男子便所 女子便所	<ul style="list-style-type: none">・親子サロン利用者が使用できるように、一部幼児用トイレに改修する。
シャワー スペース	<ul style="list-style-type: none">・乳幼児の体を洗うことができるスペースを確保する。
相談室	<ul style="list-style-type: none">・親子サロン利用者などの日常的な困りごと相談に対応するため、相談室を設置する。
執務 スペース	<ul style="list-style-type: none">・既存のOAフロア部に執務スペースを設ける。

3. 歴史資料展示室跡

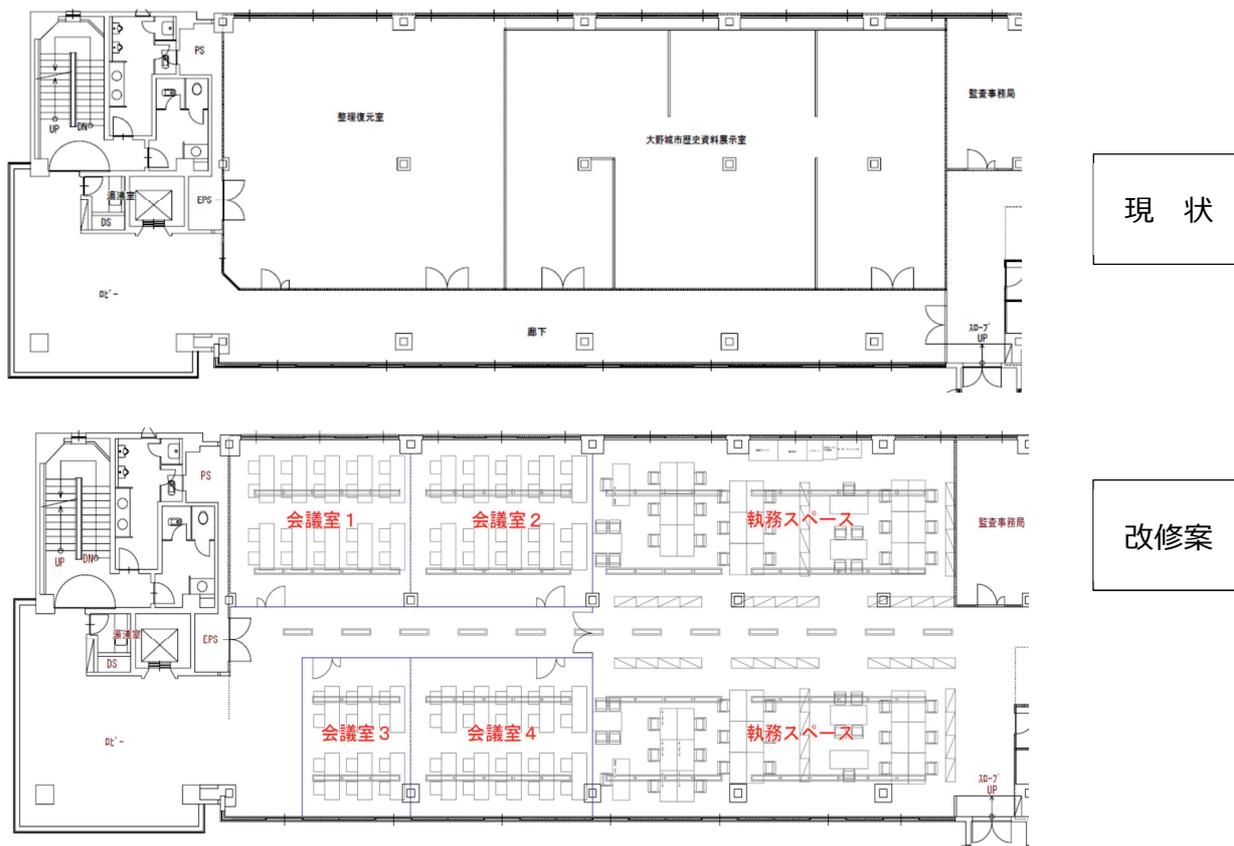
3-1. 整備方針

「市庁舎」の会議室の稼働率は平日ベースで 87%、「すこやか交流プラザ」の健康学習室の平日ベースの稼働率は 46%となっている。「市庁舎」の会議室の稼働率は、今後さらに高まり、会議室の調整が困難になることが想定される。

また、「すこやか交流プラザ」の整備に伴い、「すこやか交流プラザ」からすこやか長寿課の一部が「市庁舎」に移動することになり、そのスペースを確保する必要がある。

このことから、歴史資料展示室跡については、執務室と会議室を整備することとする。

3-2. 平面図



概算事業費 69,830 千円 (内訳) 委託料 (設計監理料)・・・7,530 千円
工事費・・・・・・・・・・54,000 千円
諸経費 (備品・引っ越し)・8,300 千円

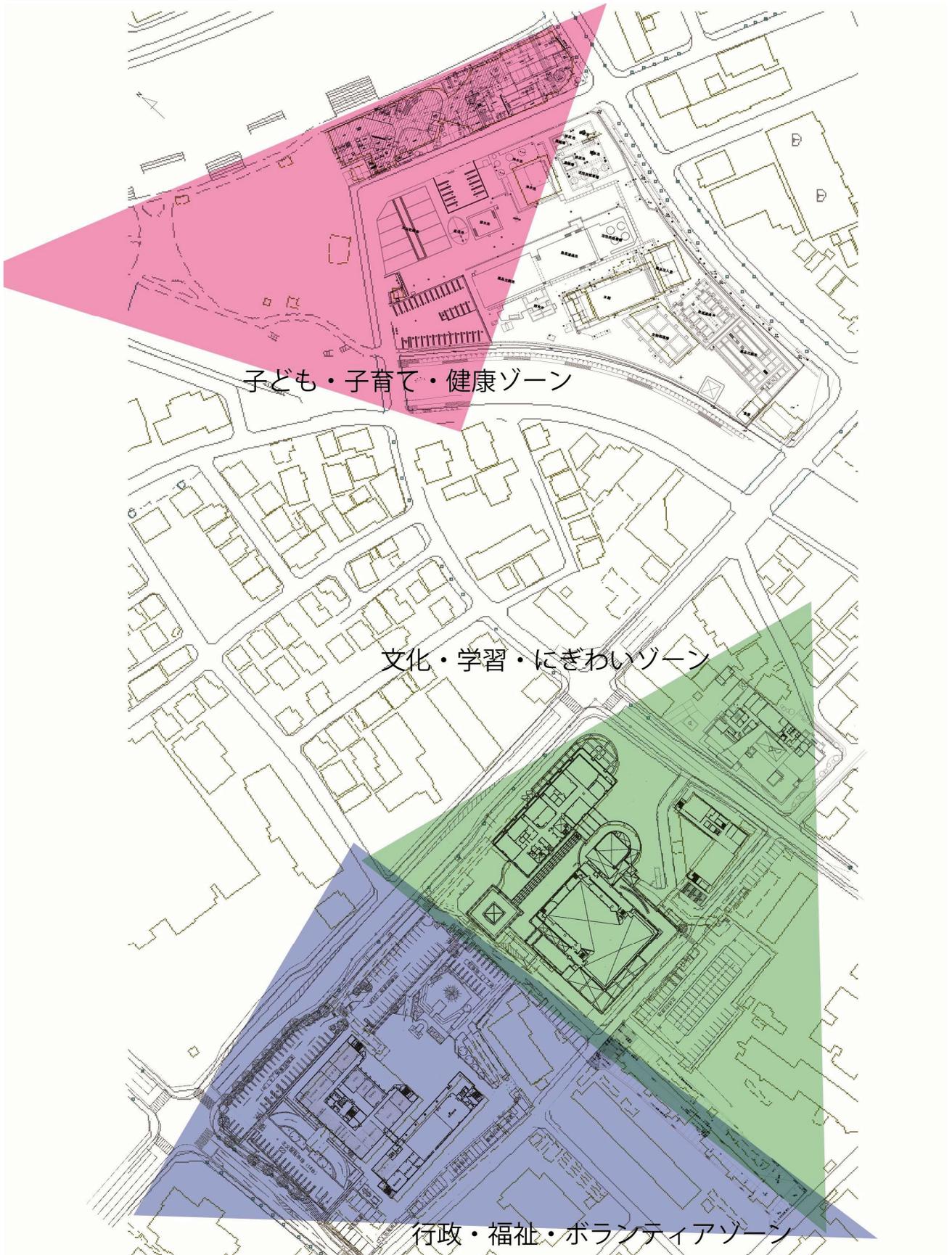
4. 第1次整備計画等工程表

		29年度						30年度						31年度									
		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
ふるさと館		○建築工事			○展示工事			○開館準備			◎開館												
	歴史資料展示室	○開館			○引越(ふるさと館へ)																		
市役所 新館3階	設計・監理	○設計			○監理																		
	工事				○工事																		
すこやか	設計・監理				○設計			○監理															
	工事							○工事															

(余白)

資料編

1. 機能別ゾーニング



・シビックゾーン基本構想・・・p17、「機能別分類」図

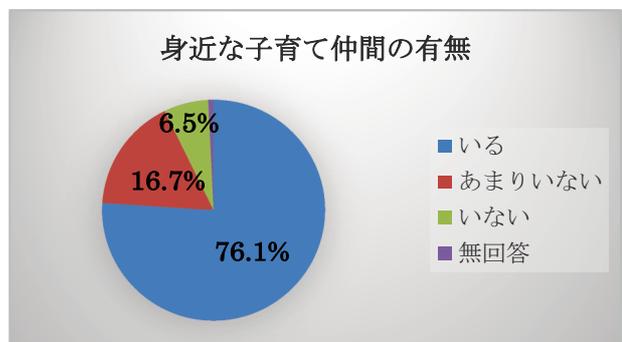
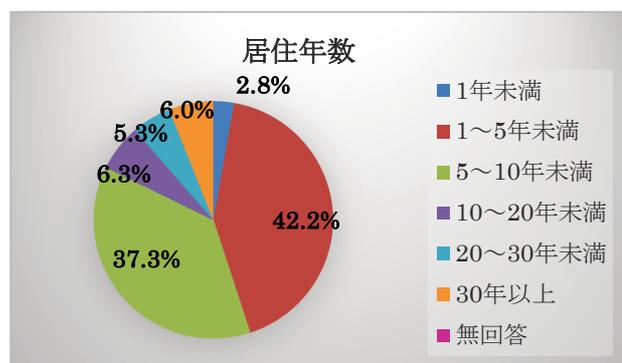
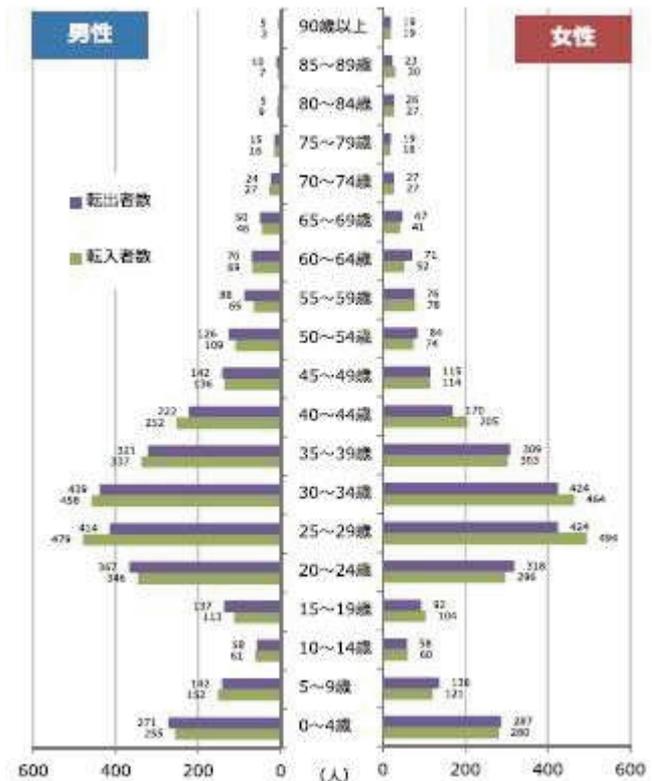
2. 転入・転出の状況

一般的には進学・就職期における転入・転出が多いが、本市においては結婚・出産期にあたる25歳～34歳における転入・転出が最も多く、この時期も含めた20歳～39歳においては転入が転出を上回っている（「大野城市人口ビジョン」より）。

また、乳幼児の保護者を対象にしたアンケートでは、回答者の約半数が大野城市の居住年数が5年未満であり、その内約7%が「居住年数1年未満」となっているなど、乳幼児の子育て世代の転入の多さがうかがえる。

一方で、身近な子育て仲間については、約23%が「いない」、若しくは「あまりいない」状況であり、子育てにおいて孤立するリスクが内在しているといえる。加えて、この割合は近年増加傾向にある（「子ども・若者に関するアンケート（平成28年度実施）」より）。

男女・年齢別にみた転入・転出者数（平成26年）



- ・大野城市人口ビジョン・・・「転入率・転出率」グラフ・コメント
- ・大野城市人口ビジョン・・・「男女・年齢別にみた転入出状況」グラフ・コメント
- ・子ども・若者に関するアンケート（平成28年度実施）・・・「居住年数」グラフ

「身近な子育て仲間の有無」グラフ

3. 市民ニーズの推移

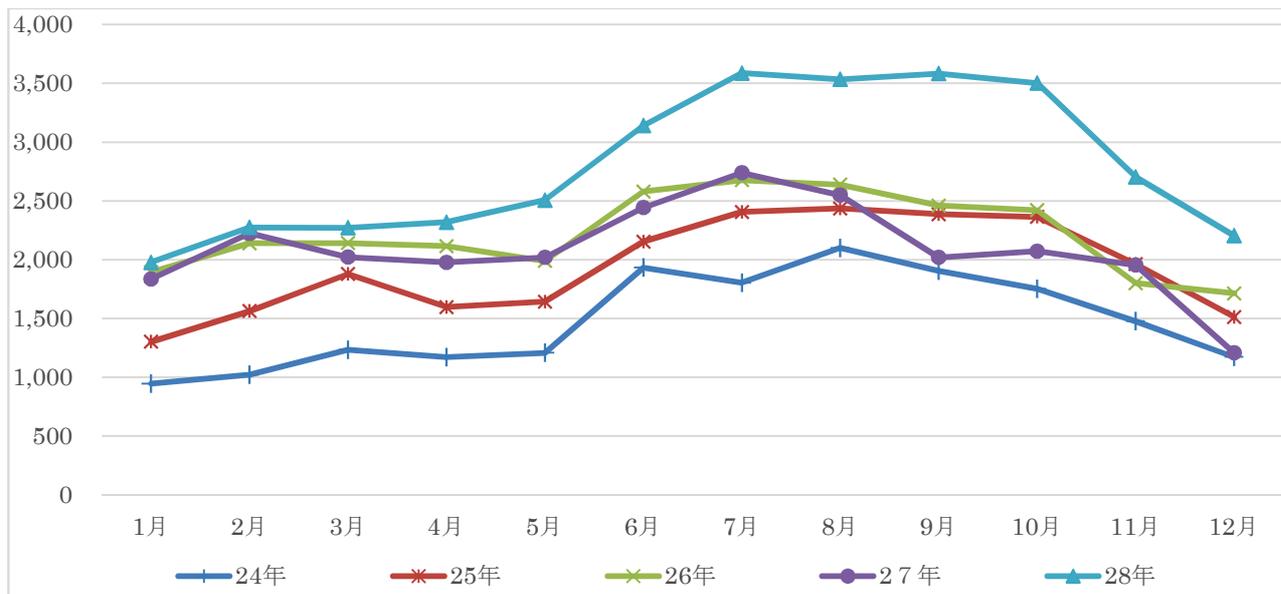
今後、保護者が子ども情報センターに求めるものとしては、子育ての仲間づくりや仲間同志の憩いの場としての機能のほか、専門のスタッフによる子育て悩みや子どもの健康状態に関する相談など、既存の機能強化を求める声が多い。

また、子育てに関する情報の入手や親子向けの講座や教室への参加のほか、専門書や絵本などの閲覧や遊具の貸出など、サービスの拡充も必要としている。

一方、ハード面では、4, 5歳児程度の就学前児童も対象にしたフリースペースの拡大や、大文字公園との一体的な利用のほか、飲食可能なスペースの確保など、利便性の向上を図りつつ、今以上に開放的かつ安全で広々とした空間を求めていることが考えられる。

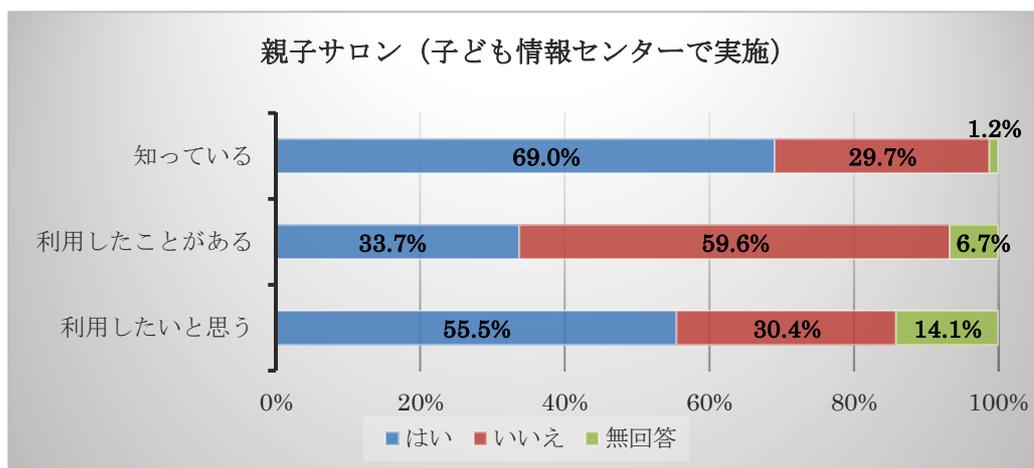
4. 親子サロン（スマイル）の利用者の推移

子ども情報センターは平成 27 年の年間利用者 22,336 人に対し、平成 28 年は 33,607 人となっており、平成 28 年 1 月のリニューアル以降、利用者が急激に増加し続けている（こども未来課統計「平成 27・28 年度親子サロン利用者数」より）。



利用者の増加と並行して、施設の認知度も向上しており、現在は約 69%の子育て世代の保護者に認知されている（「子ども・若者に関するアンケート（平成 28 年度実施）」より）。

施設を知った経緯としては、多くが口コミによるものであり、子育て仲間のネットワークを背景に施設利用者の増加が加速化していることがうかがえる。



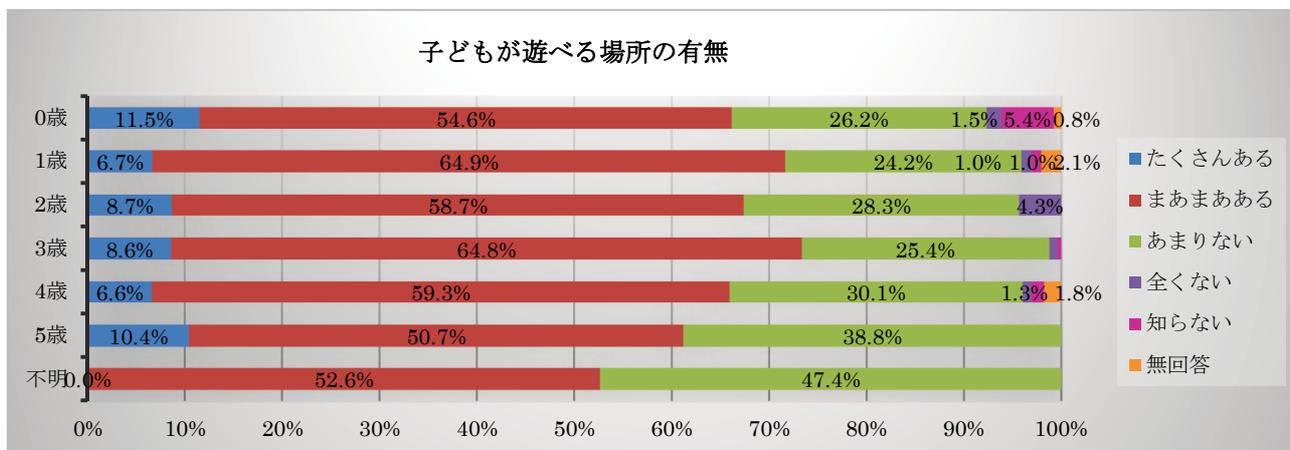
また、実際の利用状況においても、フリースペースを軸とした子どもと一緒に遊ぶことが出来る場、くつろぐことが出来る場としての活用のみならず、子育ての仲間づくりや仲間同志の憩いの場としての活用もされている。

併せて、子育ての簡易的な悩みをスタッフに相談する場としても機能しており、乳幼児の保護者の心の拠り所として、一定の効果が認められるものとする。

・子ども・若者に関するアンケート（平成 28 年度実施）・・・「子育て支援制度認知度」グラフ

5. 4～5歳児程度の子どもが遊ぶ場所の市民ニーズ

子どもの遊ぶ場所については、特に4～5歳児において、あまりないと感じる割合が増加しており、3歳児までは25%前後で推移しているのに対し、4歳児が約30%、5歳児が約39%となっている（「子ども・若者に関するアンケート（平成28年度実施）」より）。

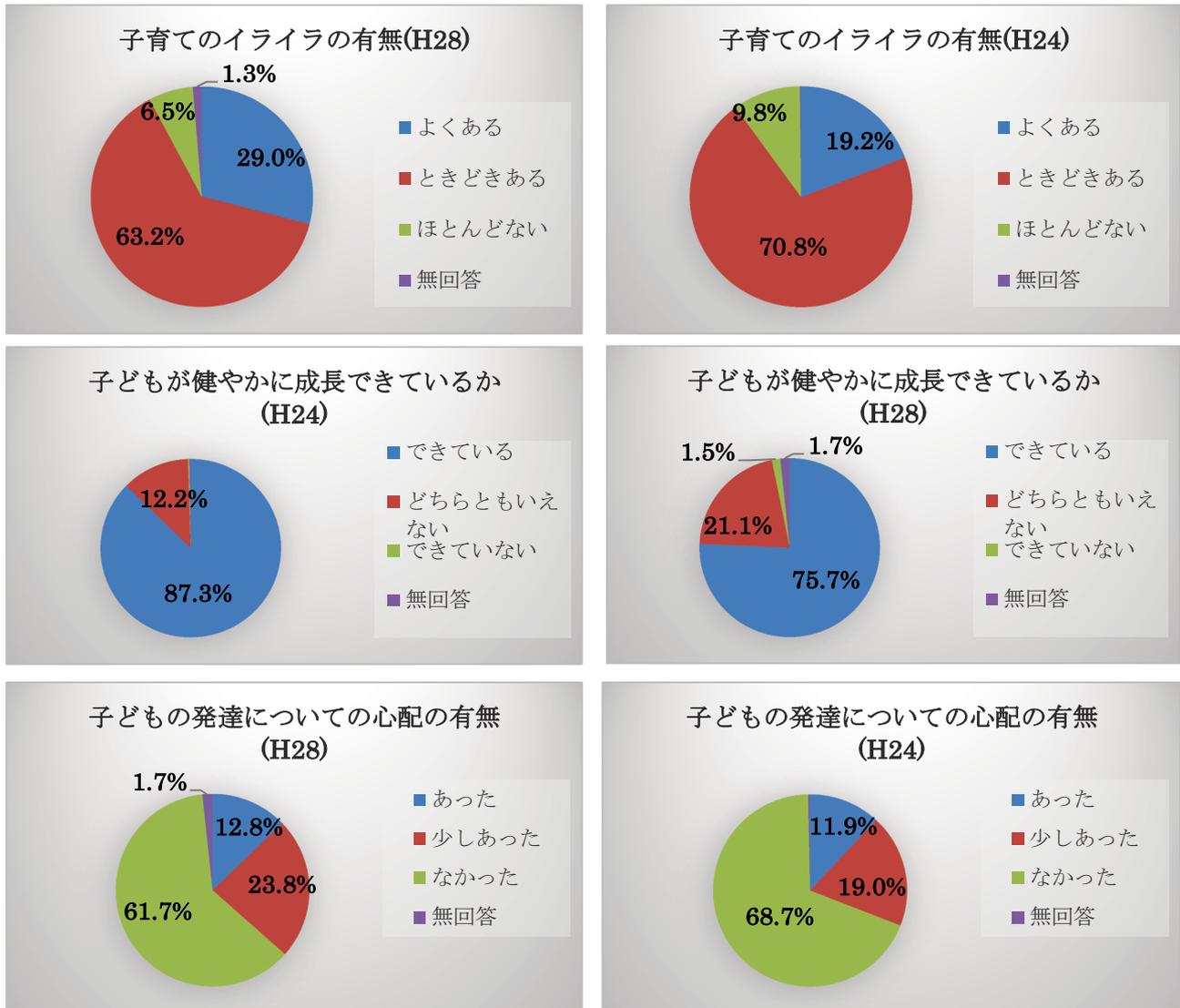


・子ども・若者に関するアンケート（平成 28 年度実施）・・・「子どもが遊べる場所の有無」グラフ

6. 子育ての悩みや不安に対する相談ニーズの推移

約 29%の保護者が子育てのイライラをよく感じており、この割合は近年増加傾向にある。併せて、子どもの健やかな成長を実感できている割合は約 76%となっており、この割合は近年減少傾向にある。

また、このことと並行して、子どもの発達についての心配事を持つ割合について増加している。（「子ども・若者に関するアンケート」より）。



- ・子ども・若者に関するアンケート（平成 28 年度実施）・・・「問 30 子育てのイライラの有無」グラフ
「問 31 子どもが健やかに成長できているか」グラフ
- ・子ども・若者に関するアンケート（平成 28 年度実施）・・・「問 38 子どもの発達についての心配の有無」グラフ

シビックゾーン第1次整備計画

平成29年10月策定

大野城市役所企画政策部自治戦略課

〒816-8510 福岡県大野城市曙町2-2-1

TEL/092-580-1805（直通）

FAX/092-573-7791

E-mail/jks@city.onojo.fukuoka.jp